

みどりを活用した取り組み事例

**屋外公共空間の有効活用と
気軽に使えるコミュニティの場づくりにチャレンジ。**

仙台駅東まちづくり協議会では仙台駅東エリアの公共空間（歩道・公園）を有効活用するための取り組みを進めています。

仙台市ではこれまでにも緑地公園や西公園などにおいて市民や市民活動団体、民間事業者との連携による社会実験や運営管理を行うなど、公園を新たな魅力向上に向けて取り組んでいることから、この度、当協議会では仙台市と連携し、榴岡公園において新たな賑わいの創出とサービスの向上を図る社会実験を実施します。

榴岡公園の魅力をもっとUP！『社会実験』が始まっています。

遊具レンタル
遊具を貸し出して使わせながら、夏休み前などの交流も深められる。

ドッグラン
芝生広場で犬を遊ばせ、近所の人たちと交流も深められる。

まちなかバーベキュー
まちなかの公園で、アウトドア気分を満喫。

キッチンカー等の出店
まちの賑わいを創出。

パークフィットネス
公園でジョギング。

どなたでもお気軽にご参加ください。

実施期間
令和3年9月下旬 START!

仙台駅東まちづくり協議会

ご予約・お申込みについての詳細は
ホームページ
<https://seitan-ekitagaki.net/>
またはQRコードをご覧ください。

《公園の魅力アップに向けた社会実験の実施
「榴岡公園」》

■仙台市榴岡公園

（仙台駅東まちづくり協議会と連携し、榴岡公園において新たな賑わいの創出とサービスの向上を図る社会実験を実施）

出典：仙台市HP「榴岡公園における社会実験について」



《矢田南部地域まちづくり》

■大阪市東住吉区矢田南部地域まちづくり

（地区内の道路・公園等の再配置を含め、まちの魅力を向上させ、にぎわいを創出し、交流を促進するまちづくりを民間事業者の公募により実施）

出典：日本GLP「住民説明会用資料」

みどりに求められる役割の変化

公園緑地施設の長寿命化、適切な維持管理

日常メンテナンスの重視

既存公園の再編、活性化の視点重視

公園整備および管理運営における社会・経済効果実証の重視

まちの資産価値を高める（不動産価値、観光資源価値、など）



「街路樹診断カルテ」の事例

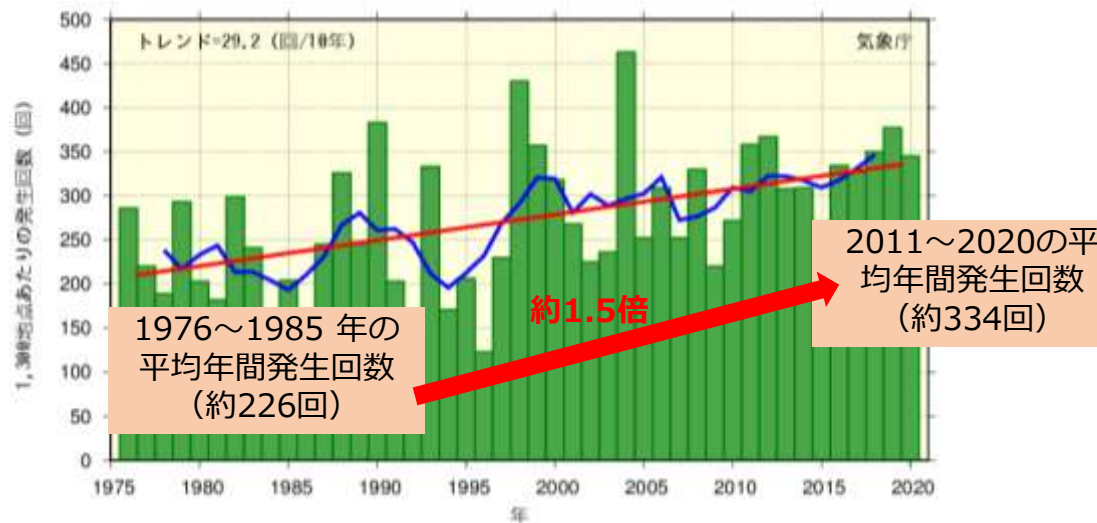
出典：東京都街路樹診断等マニュアル

E. 異常気象に伴う自然災害の頻発化・激甚化

動向 局地的な大雨

- ・局地的なゲリラ豪雨の発生回数は近年大幅に増加し、大阪市においても平成23～25年に大きな被害に見舞われており、**市民を災害から守り、市民が安全に暮らせるまちの整備**が求められている。

【全国アメダス1時間降水量50mm以上の年間発生回数】



※棒グラフ(緑)は各年の年間発生回数を示す(全国のアメダスによる観測値を1,300地点あたりに換算した値)。太線(青)は5年移動平均値、直線(赤)は長期変化傾向(この期間の平均的な変化傾向)を示す。

出典：気象庁HP

【局地的大雨による浸水被害の状況】



平成23年8月27日の浸水状況
(大阪市中心部)



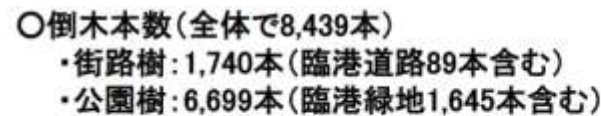
平成24年8月14日の浸水状況
(大阪市城東区)



平成25年8月25日の浸水状況
(大阪市内北区)

【近年の台風の発生状況】

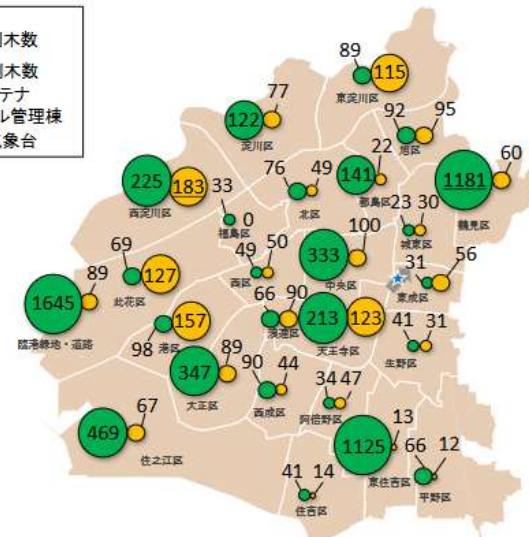
【台風21号における大阪市の被害状況】



○公園施設の被害箇所

・101公園413箇所(主な被害施設:フェンス、公園灯、舗装の損壊など)

一、凡例



公園樹の被害状況(大正区:千鳥公園)



公園施設の被害状況(鶴見区:鶴見緑地)

市内の公園樹・街路樹の被害状況（倒木）

出典：第3回みどりのまちづくり審議会資料（平成31年2月）
「台風21号の被害状況と復旧について」

図 2.4-1 台風の発生数の経年変化

細い実線は年々の値を、太い実線は5年移動平均を、破線は平年値を示す。



図 2.4-3 「強い」以上の勢力となった台風の発生数
と全発生数に対する割合の経年変化

細い実線は、「強い」以上の勢力となった台風の発生数（青）と全台風に対する割合（赤）の経年変化。太い実線は、それぞれの5年移動平均。

出典：気候変動監視レポート2020

動向 大規模地震発生の予測

- ・30年以内に西日本全域に大規模な被害を与えると予想される南海トラフ地震をはじめ、近い将来、多くの地震発生が予想されており、**災害時の被害を抑制するとともに避難路、避難場所等となるみどりのあり方**が期待される。

【近い将来発生が想定される大規模地震】

